


受賞者氏名	下吹越武人	
所属	デザイン工学部	
受賞年月日	2020年10月1日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	財団法人日本産業デザイン振興会	
受賞名	グッドデザイン賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>『ルネ麻布十番』は東京中心部の商店街に建つ中規模ホテルで、基本設計と実施設計以降のデザイン監修に関わりました。</p> <p>敷地は現在も多くの人々で賑わう麻布十番商店街にかつて存在した麻布十番温泉の跡地です。敷地が面する交差点は元麻布から鳥居坂を結ぶ坂道と商店街が交わる地域一帯の重要な都市ノード（結節点）であり、麻布十番温泉は地元の憩いの場として親しまれていました。また、麻布商店街の街並みは小さな個人商店が連なり、人々の振る舞いが生み出す限界性が魅力的な街路ですが、詳細に観察すると、建て替えによる現代的な商業施設が時折その街並みを分断しています。</p> <p>この敷地にインバウンドを中心としたホテルを設計するにあたり、画一的で経済効率を優先した計画がもたらす表層的デザインから距離を置くことを基本姿勢としました。ホテルを街の顔を担う都市施設として捉え、地域コードを丁寧に読み取り、商店街の活力を支える街路空間の要素を継承・更新することに努めました。麻布十番温泉は2008年に解体され、温泉の配管なども撤去されていたので、当時の様子を窺い知る痕跡は何もなかったこともあり、少し視点を引いて、麻布地区全体を俯瞰しながら、敷地が保有する場所の特性を探ることを重視しました。敷地と周辺地域をリサーチした結果、商店街の流れに接続する小さな溜まりをつくり、都市広場のようなオープンな空間を形成するのがこの場所に相応しいと考えました。</p> <p>具体的なデザインとして、まず、交差点を人間を中心とした都市広場として再構築するゾーニングを行いました。経済性を重視した設計を行うと、条例で義務付けられる駐車場の出入口を交差点近くに設ける平面計画になってしまいます。しかし、その場合は都市景観において重要な交差点の風景が台無しになります。別の方向性を模索した結果、建物ボリュームを交差点からセットバックして駐車場出入口を交差点から最も遠い敷地北側に配置しました。交差点に接したエリアは商業空間として平屋化し、屋上テラスの賑わいや広がりやが交差点と一体化することで商店街のオープンコアとして交差点が広場化することを目指しています。</p> <p>ファサードはPCaコンクリートによる水平リブとランダムな縦リブによって彫りの深い端正な佇まいをつくり、商店街の小さなスケールを継承しながら、社寺が散在する麻布地区の景観形成に配慮しました。また、客室はフルハイトの開口とリブフレームによってプライバシーと外部への開放性を確保し、街の中に滞在する愉しみを重視した空間としています。その他、テラスを併設した客室や中庭の緑化など、外部と親和的な環境形成に努めました。将来的な改修や用途転用も見据えて基準階の大梁は外周のみとし、内部はフラットスラブで構成しています。</p> <p>海外を訪れるとホテルは都市の大切な顔であり、都市の印象に大きな影響を</p>	

与えていることを実感します。コロナ禍の直前まではインバウンド効果で膨大な数のホテルが建設されましたが、その多くは経済性が優先され、外観は表層的な流行りのデザインが施され、魅力的な都市景観形成に貢献しているとは言い難いのが実情です。都市に関する関心の無さや敷地単位の都合で建設される建築が立ち並ぶ雑多な光景は東京らしい景観とさえ言えばそれまでですが、街並みを丁寧に観察すると、現在でも地域らしさを支える DNA を読み取ることができます。現代の東京では、鍼療治のように地域の重要な場所を都市的な視点を用いて建築を構想するアプローチが効果的ではないかと考えていますが、今回の受賞はそうしたアプローチに対して評価を頂き、大きな励みとなりました。今後もますます都市と建築の関係を探りながら現代の建築研究を邁進したいと思います。



